



$a_{n+1} = pa_n + q^n$ 型の漸化式

$p \neq 0, 1, q \neq 0$ とする. 漸化式

(i) $a_1 = a$

(ii) $a_{n+1} = pa_n + q^n$

で定義される数列の一般項を求めよう. $q = 0$ なら, 数列 $\{a_n\}$ は単に等比数列なので, $q \neq 0$ としている. 漸化式 (ii) の両辺を q^{n+1} で割ることにより, 等式

$$\frac{a_{n+1}}{q^{n+1}} = \frac{pa_n}{q^{n+1}} + \frac{1}{q} \quad (1)$$

が得られる. ここで, 数列 $\{b_n\}$ を

$$b_n = \frac{a_n}{q^n} \quad (2)$$

で定義すると, 等式 (1) は,

$$b_{n+1} = \frac{p}{q}b_n + \frac{1}{q} \quad (3)$$

と書ける. $p = q$ なら, 数列 $\{b_n\}$ は, 単に等差数列なので, その一般項は,

$$b_n = b_1 + \frac{n-1}{q} = \frac{a}{q} + \frac{n-1}{q}$$

である. よって, 数列 $\{b_n\}$ の定義式 (2) から, 数列 $\{a_n\}$ の一般項は,

$$a_n = q^n b_n = q^{n-1}(a + n - 1) = p^{n-1}(a + n - 1)$$

と表せる.

$p \neq q$ なら, 数列 $\{b_n\}$ は, 「 $a_{n+1} = pa_n + q$ 型」の漸化式¹ で定義される数列である. このとき, 注釈の公式 (4) を用いて, $\{b_n\}$ の一般項は,

$$\begin{aligned} b_n &= b_1 \left(\frac{p}{q}\right)^{n-1} + \frac{\frac{1}{q} \left\{1 - \left(\frac{p}{q}\right)^{n-1}\right\}}{1 - \frac{p}{q}} \\ &= \frac{ap^{n-1}}{q^n} + \frac{q^{n-1} - p^{n-1}}{q^{n-1}(q-p)} \\ &= \frac{1}{q^n} \left\{ ap^{n-1} + \frac{q(q^{n-1} - p^{n-1})}{q-p} \right\} \end{aligned}$$

と表せる. 最後に, 数列 $\{b_n\}$ の定義式 (2) から, 数列 $\{a_n\}$ の一般項は,

$$a_n = q^n \cdot b_n = ap^{n-1} + \frac{q(q^{n-1} - p^{n-1})}{q-p} \quad (5)$$

と計算できる.

補足. 漸化式 (ii) $a_{n+1} = pa_n + q^n$ は, $q = 1$ なら, $a_{n+1} = pa_n + 1$ となり, 単に 「 $a_{n+1} = pa_n + q$ 型」の漸化式である. このことは, 一般項 (5) に $q = 1$ を代入すると, 注釈の公式 (4) に $q = 1$ を代入したものが得られることから確認できる.

¹漸化式 (i) $a_1 = a$, (ii) $a_{n+1} = pa_n + q$ ($p \neq 1$) で定義される数列の一般項は,

$$a_n = ap^{n-1} + \frac{q(1-p^{n-1})}{1-p} \quad (4)$$

と表せるのであった. <https://gleamath.com/recurrence-relation03/>